

## 生駒市郷土資料館新設準備検討懇話会第2回会議録（要点筆記）

1 開催日時 平成22年9月30日（木）午後3時～午後5時8分

2 開催場所 生駒市コミュニテイセンター206会議室

3 出席者 （委員）浦西委員 山本委員 吉川委員 小林委員 樋口委員 吉田委員  
西川委員 山田委員 臼井委員 神委員  
（事務局）長田生涯学習部長 西野生涯学習課長 今野生涯学習課長補佐  
錦文化振興係長 西山文化振興係員

4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人 なし

### 5 議題

会長あいさつ

- (1) 第1回会議録の承認について
- (2) 諸項目の検討
- (3) その他

### 6 審議内容

- ・ 第1回会議録の承認について  
訂正箇所 4箇所あり  
訂正のうえ全員承認
- ・ 諸項目の検討

(1) 登録有形文化財建物の活用について

浦西会長 どのような活用について意見を求めているか質問の趣旨を説明してください。

事務局 旧生駒町役場の庁舎の再現についてどういった方向性でしていけばいいか、展示・交流スペース等の用途的なことなどで意見をいただきたいと思います。建築仕様についてもご意見をいただければと考えています。

浦西会長 基本設計の現状はどうか。

事務局 9月中旬の入札で落札し、先日契約を締結しました。本格的に開始するのは来月以降で順次工程を決める予定です。

- 浦西会長 建物の博物館的なものに改修するよう進んでいますか。
- 事務局 基本設計を行う業者に近代建築の専門的な技術者がおり、現状は、役場庁舎から公民館へ機能を改修した所が分かりづらいため、床や屋根裏等を調査して建築仕様を一部変更し、復元的な仕様で進めたいと考えています。
- 神委員 登録有形文化財ということで制約があると思います。文化財として残すという考えと、博物館として使うという考えは必ずしも仕様が、一致するとは思えない。そういった制約はあるのですか。
- 事務局 登録有形文化財の場合は、外観を 1/4 以内の現状変更に限れば届出の必要はないことになっています。内部は制限はないが、役場庁舎の機能を持つ建物だったため復元的に改修するのがいいのではということで、奈良県教育委員会から指導・指示を受けることになります。
- 神委員 方針ということは、具体的にどの部屋をどうするかはこれから決めるのですか。
- 事務局 はい。
- 浦西会長 事務局からこの懇話会にいろんな意見を出してほしいという意図は、登録有形文化財の建物活用についてのどのような意見を求めているのか。文化財の中で登録有形文化財という形で国の制度はありますが、国指定重要有形文化財のランクと比べたら下位にあたる。1/4 以内の改修も可能、基本的にはその建物の外観・景観は守る制度にこの建物が登録されたということ。基本的には、あまり手を加えない、現状をそのまま活用した博物館というイメージになるかと思います。
- 神委員 1/4 とは面積ですか。
- 事務局 外観です。
- 神委員 内装はいいのですか。
- 吉川委員 役場にするならば復元的にするのいいが、博物館にするのだから基本的に博物館の機能を優先するべきではないかと思います。項目の(2)展示以降のことを

決めてからやるべきではないかと思います。

今、私の大学の建物が登録有形文化財になっており、改修をおこなった経験もありますが、博物館として使いやすいようにするのが一番良いと考えます。

吉田委員 建物自体が登録された文化財であるから、建物自体を顕彰すべきです。生駒町役場という市民にとって身近な懐かしいもの、今までの生駒の歩みを表せるものだから、指導の入る部分は復元して、外観・中身もまるごと文化財として保存する。そのバランスを念頭に入れて考えたら良いと思います。

浦西会長 景観を意識して、展示等も考えたらどうかということですか。

吉田委員 保存と活用の両方が必要だと思います。

浦西会長 既製の建物を資料館として転用するメリット・デメリットが存在します。両方制約があり、それを資料館として使用する。そして一方で、建物自身の資料的価値もある。それをどういう形の博物館にしていくかは伝統的建物を活用する宿命というものであり、我々も含めて考えていかなければならない問題です。資料館の展示・収集・機能について話を進め、建物の活用の意見に戻ることになります。

山本副会長 重要文化財などと違い、この建物はそう古いものでない。町役場として残すことが主になっているのではないかと思う。基本はそこを重要視することが大切だと思います。

## (2) 展 示

神委員 建物の外観は残しつつ、中は現代的にしてスペースを活かそうという考え方で残す例が多いと思います。今も活用することが大きなポイントになると思います。中の構造を見せるなら別の見せ方もある。要はバランスです。

浦西会長 どちらに優先をおいていくかのバランス。生駒町役場が国の登録有形文化財に指定されて、それを整理する、それと並行し資料館を開設しようという願いということになります。それについて意見はありますか。

白井委員 求める形がわかりづらい。内容、方法、運営、機能の話と、この言葉で言うところの保存・収集管理の問題、機能的な分野、その辺の領域をある程度絞って提言を求めてもらいたい。

前回の「いのちのつながり」というキーワードを使って話のベースとし、「古きを訪ねて」というところから繋ぐような形に作りあげるようにすれば、役場の形を残し、「古き入り口を入れればこういう流れの中できているのか」と、そして「今の生駒は」というイメージを話すなら話しやすい。活用云々という単語単語でくると話しづらいと思います。

浦西会長 事務局をお願いします。

西野課長 今日、別館の会場が使用の先約があり、本来ならば現地で、内部も見ただきながら、発想・活用の意見をいただければと思いましたが。ここの検討項目は、あくまで検討時期の目安で大まかに書いています。(1)から順にクリアする審議・検討の方法より(1)番か(2)番から進めていただきながら、再度(1)番で新しい意見もいただき、基本設計が進む中で検討しやすいところから進めていただいて問題ないと思います。検討時期の目安についても事務局案で書いたものです。

神委員 私の方で、市民はどんな事を期待するのかまとめた資料を作ってきました。生駒市におけるこの資料館は、「市民の市民による市民のための博物館」。機能は博物館学ではないが、収集保存・調査研究・展示・教育普及は変わらない。市民の博物館のあり方とは、設備、市が所有する資料を活用し顕彰していくのが大きな役割です。開館すると市民のニーズに答える事業をする、生涯学習・学校教育の市民ニーズを把握し何がニーズかを考え、把握するシステムが要るかと思います。具体的にまとめたものが例えば仕組みは、市民アンケート。これは前回しているのですか。

西野課長 総合計画の中にあります。

神委員 郷土資料館についてもいろんな意見等集約しているのですか。

西野課長 総合計画の作成にあたり目標を設定し、その中でニーズを把握しながら進めていく方向です。

神委員 市民からの要望は把握しているのですか。

西野課長 具体的に限定したアンケートではなく、市民意識調査の中、歴史・民俗・文化に関するテーマで、例年歴史セミナーや市民カレッジを受講された方

にアンケート調査で市民のニーズを把握しています。

神委員 資料があるなら、一度解禁して我々で中で進めたいので、何かの形で見たいのですが。

西野課長 資料館限定ではなく、講座等の学習ニーズで出てきた意見です。それぞれの講座のアンケート調査になっているので、それを全てまとめたものにはなっておりません。

神委員 膨大にあるのですか。

西野課長 学習内容や受講したい先生等のニーズとして次回以降の講座の参考にしています。

神委員 いい声を集めた資料があるのなら、何らかの形で見れば力の入れ具合が違ってくる気がします。準備委員会や市民会議など、例えば子ども会議、これは、三重の県立博物館を造るにあたり大人だけでなく子ども達、実際にどんな博物館が欲しいか声を聞こうという中で現在実施しています。そんな事を学校に行き聞いてみるとか。ここでいう仕組みであるから入館料を取る取らないで大きな違いがあるが、こんなことを決めて考えていく必要があるのではないか。設備について大事なことは生駒市の財産を今に活用し継承していくにはどんな設備が必要か。あまり収蔵庫は取れそうにない。前回ここに全部収納すると思ってない話があり収蔵庫はそれほどウエイトがないようです。展示に関する考えはどうか、今これから明らかにしていくことになると思います。博物館を造れば終わりではなく、造ってからが本番なので、市民のニーズをどのように生かし活動していくか。オープン前からのプレイイベント等も考えていく必要があるのではないか。市民による博物館、仕組み・設備・事業を繰り返し出ているが、市民と協働し、みんなでつくる、市民参加方の運営組織を作るのも一つかもしれない。寿大学・NPO とどう繋がるか。継承という以上、若い世代の小・中・高校生・大学生を来る前から今から引っ張り込むことが大事です。設備は、ボランティアに活動してもらうなら部屋が要るとか、作業場が要るとか、活動を広げるきっかけ作りにも繋がる。事業は、市民参加方の運営組織と協働で計画し、うまく繋がっていけば市民による博物館の作り方なのではないかと思います。市民のための博物館は、当然市民が自主学習する場ということでもある、市民が活躍できる仕組みを作りあげていく。評価する方法でも

マンネリ化し弊害があることを防止する検討課題も今後出てくる。自主的に活動でき、企画できるスペースという意味で会議室が要るのではないか。果たしてこれらが 530 m<sup>2</sup>の中でできるのかとは思いますが。出前キット、これは、前回の中であった「回想法キット」。お年寄りが昔使用した道具やおもちゃを触っていくうちに元気になる。老化防止策になる。我々も子どもの頃のお祭りが懐かしい、懐かしさが元気にする。そのようなものを積極的に入れてはどうか。報告書の中にもありました。「回想法」によるケア。北名古屋市歴史民俗資料館に昭和の暮らしを展示しているが、そこにはお年寄りがたくさん来て、昔の話を聞いたり歴史の蓄積にもなっている。生駒市でもどんどん昔の暮らしや体験が失われている。伝統行事も時間が経れば失われてくるが、そこで子ども対象にそんな体験や復元もする。最初はハードにいきがちな会議ですが、グランドデザインだからハードをどうするかという話で落とししていくと漏れなくていいと思いました。

吉田委員 「市民の博物館、市民による博物館、市民のための博物館」、これ全部一緒ではないのですか、「市民の博物館」でいいのではないのですか。それぞれに仕組み・設備・事業があるのは、みんなに関ってくるのではないのでしょうか。「のによるとか、のための」とかの表現をしなくても、市民の博物館であれば全てが関わってくる。この中の今言われたことについて具体的に何をするかをこれから話していくのですね。

神委員 今我々は、展示の部分から切り込んでいっても全体が見えない。もっと市民の視点から追い込んでいった方がいいだろうという形で体系的にしました。これは一案であり、これでいこうという意味ではありません。「市民による」という市民の視点を大事にしたいということで作ってきました。

吉田委員 展示を話し合う場合、そこには市民の姿が必ず現れてくると思います。そういう形で市民の役割なり、やり方なりを現せます。こういうものを頭に描きながら展示を考えていく方法ですね。

神委員 漠然とつめるより一つの指針があった方がいいかと思いました。

吉田委員 非常に参考になりますが、これにあまりこだわると、それぞれが分解したら市民の博物館の意味合いが薄くなるように思います。全部関わってくる問題だと思います。前回「みんなでつくる博物館」というテーマがあるわけだからそれはこのことをいっている。私は、もちろんそれを念頭におくと

いうのは良いわけだが、ここから議論が広がらない。個別のことをやり、個別に意見が出てくると、必然的に市民の役割、市民にどうタッチするかとかの議論になるはずです。

樋口委員 ハードルが高いと思います。確かに理想的な博物館は必要であると思います。現実にあの場所・スペース・建物を活かしながらいろんな要素を盛り込んだ活用が可能なのか。子どもが生駒市の資料にどれだけ興味・関心を現実的に持っているのか。良い博物館を、できるだけハードルの高い、良いものを目指していくことはこの場としては持つておかないといけない。ハードルの高さを、我々はどこに目線を合わせるかを考えるべきです。大上段でかまえてスタートしても閑古鳥が鳴いてたのはいけない。活用・中身は後からいくらでも付加していける。私自身、保存自体にも大きな価値があると思います。

多くの人が集まらなくても、生駒市が抱えてる資料を保存する資料館としての大きな価値があるという前提のもとに、その中でより活用が深まれば非常に良いと思います。あまりにも活用に視点が行き過ぎると、実際スタートして人は集まって来なかった現実もあると思います。そのための方策を今の段階から考えていくことも非常に大事なことだと思います。自主運営ができ、市民が運営できることも大事ですが、保存のために行政が赤字覚悟で予算を運用していくという姿勢があるのか、あくまで「建物を造って中身もやった、後は市民で運営して下さい」というスタンスなのか、それにより違ってくると思います。人が多く集まる資料館、博物館が必ずしも良いこととは言えない。運営の仕方も含めて、こじんまりとしたところからスタートしていった進めたほうが良いと思います。

浦西会長 大変重要な意見だと思います。我々も議論しながら雲をつかむような話をするのか、現実的な話をするのかというのが分からない。板ばさみのところがあるのですが、事務局に伺っておきたいのは、登録有形文化財を保存改修しメンテナンスを含め行政がどこまで面倒を見ようとする方針とというのは決まっているのでしょうか。事務局に運営の方針を聞かせてほしいと思います。

事務局 市の施設、生駒市立の郷土資料館の取り扱いになります。具体的な運営方針は、検討委員会の中での意見を参考にし、運営も含めて、どの形が市民が郷土に関する関心を持つか、郷土愛に繋がっていくかの視点で捉えていくかだと私個人は思っています。運営自体、経費の節減は市の行政改革の

中での大きい目標になっているので出来るだけ市民参加協働型の運営を進めていくのが理想だと考えています。ただ、市の施設として、市民により親しまれる、リピーターがたくさん来ていただけるような施設として運営ができればと思っています。

山本副会長 樋口委員と同様、この資料館で正倉院展のようなことはできないのはわかっている。十分活用しようと思うと建物の価値が損なわれる。建物は放っておいたら傷む。管理するために建物を開く意義がある。へんに改修すると、将来修理しても元に戻せなくなる。使わなかったら建物は傷む。子どもの教育に使うことが一番。そういうことを考慮して活用を考えていったらいいと思います。

山田委員 商売人は、こういう建物での事業は採算が採れないからまずやらない。神戸の大工館に行ったことがあるけれど、前に行ったときはそんなに印象になかったが、かんな削ってなんかの道具を使わせてもらったり、説明してもらおうと、「なるほどね」と興味湧いた。おもしろかった。体験できて、説明してもらおうと興味も深まると思います。

吉田委員 建物を残す。そして展示は、常設展示は基本的な情報だから、スペースが少なくてもいいと思う。あの建物で全ての資料を保存はできないのはわかっているから、展示は企画展示に絞って2ヶ月に1回入れ替え、展示スペース、ライブラリー、サロン、30~50人が入る多目的スペースを取ってセミナーや体験学習、鑑賞ができるようにして、企画展と関連付けて「日替わりカルチャー」をやる。サロンは自主学習の団体などを組織化し母体となる組織を作ったら。収蔵は分散保管をしているが、収蔵場所は1箇所絞るべきだと思います。

神委員 資料は継続して集まってきている状態なんですか。

事務局 随時、蔵をこぼすので見に来て欲しいということになればですが、同じような種類がたくさんあるとお断りする場合があります。

浦西会長 資料を残すことに意義はあると思う。歴史的痕跡を行政が残すことに意義があると思いますが、ただ置いておくだけでは、理解が得にくい。これは博物館事業の根本的な問題であると考えます。気持ちを残す、伝えることは大事で、バランスをどうするかということに



なる。大事だということを教えるのが活用だと思います。では、そのシステムを考えることが必要になってくる。そのために体験や集めるという行為は必要になります。

神委員 兵庫県の博物館の方と話した時、神戸の大震災があった時に遺跡公園等がいろいろあるが、そこに学術的に重要と標識はあるが残がい置き場になっている。残すといっても本当にこれが、我々の祖先の大事な足跡であると芯から分かっていなければ、ありがたかったら少し考える。残すだけでなく、気持ち、先祖代々伝えてきた部分をきっちりする。今は、高校で日本史を取らなくて済むので、博物館やこういうところで地域の歴史を伝えることがとても大事なことだと思います。どちらが大事ではなく両方大事だということは間違いないです。そのバランスをどうするかが課題なのかなと思います。

浦西会長 皆大事だよと教える部分が一つ活用の部分に存在する。それをいかに、子ども、市民を含めて発見させるか、その機能が必要な部分かもしれません。この生駒市の登録有形文化財が残っている歴史を市民が本当に熟知できるかどうかというシステムを考えるのが一つの活用の方向かもしれない。同時に重要な意見ですが、体験したり、集まったりする行為も必要だと思います。

西川委員 常設展示は大事だと思います。老人クラブ等の方々に協力してもらい、資料の説明をしてもらう。展示替えして行って説明もする、企画室では伝統行事、まつりの再現もしたらいい。講師もいいが、高齢者の方々に生の声を聞かせてもらう聞き取りもしたら良いと思います。

小林委員 私は小学校4年生の担任をしているんですが、校外学習で矢田の民俗博物館に行ったことがあり、そのときの感想を子どもたちに聞いてみました。子どもたちは、意外によく覚えていて、「おもしろかった」「昔のものと今使っているものと比較できてよかった」「おまつりのテレビを見たらおもしろかった」と言っていました。トウミ、千歯コキは学校にもありますが、うまく活用できていないので、それも活用できればと思います。馬見古墳の資料館も見に行きました。そこでは古墳を今造ったらどのくらいでできるかなどがわかるように、ブルドーザーなどを使って今の造り方と比較をやっていて、「おもしろいな」と興味を持ってました。道具を実際に使えたり、映像があると楽しんで観られるかもしれないと思いました。

吉川委員 小中学生に歴史を学ぶ機会を与えるのは大事なこと。  
私も安堵町歴史民俗資料館に行ってきました。豪農の家で稲を植えて道具を使って米を作るなどしている。  
しかし学芸員がものすごく苦勞されておられると思う。かなり負担がかかっているように思います。  
昔の大きな庄屋の家の中で体験でき、常設展は非常にしっかりしている。そこに行けば安堵町の歴史が全て分かる。知りたい時は、まずそこに行けばいい、と非常に参考になる。体験学習としっかりとした常設展。ただ、（生駒の施設と違って）大きな収蔵庫があり、規模ははるかに広い。そこが非常に難しい。先程から保存と活用と言われてるが、建造物の保存と活用と文化財の保存と活用は分けて考えるべきであろうと思います。

樋口委員 先程小学校の子どもたちの反応を聞いて意義あることだと思いましたが、中学校はどうかというと、学校が校外学習で生徒を引率して活用できるかということ、その可能性はなかなか難しいと思います。生駒はなかなか対象にするのは難しい、バスが入る駐車場や弁当が食べれるところなどいろいろ条件が出てくる。授業で全部の学校に資料館へ見学に行くようにさせるのは、今の学校のなかではギブアップです。一般の方が子どもを連れて来るか、近くの学校なら来るのか、あとから付いてくる部分でもう少し現実に沿った議論をしていただきたいと思います。

臼井委員 私も東大阪で学校に勤めていた経験があり、状況はよくわかります。博物館はオールマイティに構えないといけないと思います。どの世代でも受け入れられるようにすべきだと思う。むかしの道具をみて、こんなもの使ったな、と感じたり子どもと一緒に鑑賞できることがいいと思う。保存のほうはスペース的に一杯でほぼ無理のようなので、何処かの場所から運ぶことでいい。常設展プラス季節の行事の再現などを企画展でおこなったりすればいいと思います。

西野課長 スペース的なことを参考に言いますと、中央公民館別館の中には市民ホールと公民館別館の集会室と大きく2箇所部屋があります。市民ホールで約120㎡、集会室は和室で35畳。あとは当時の用務員室、トイレ、土蔵、中庭という建物ですので、500㎡程度のせまいスペースで工夫が必要です。次回現地を見ていただきながら、説明もできると思います。今年の夏休みを利用し3日間「ワクワクドキ土器！？はっくつこま」を芸術会館で開

催し、須恵器の展示・発掘体験・勾玉作りを親子で350名の参加をいただきました。夏休みということもあり、体験型だと子どもたちの参加も得ました。

白井委員 先程郷土愛を醸成ということでおっしゃってましたけれど、郷土愛ということになると、茶釜は伝統的な産業だから、茶釜もテーマにできると思います。

吉川委員 茶釜は高山竹林園で展示をおこなっており、製作実演もされています。生駒市には「フィールドミュージアム構想」というのがあるが、博物館だけの問題とせず、竹林園、せせらぎ、はばたきなどの施設を利用して、その地域をテーマにしたミニ展示などをおこなって、町全体を博物館と位置づけてネットワーク化を図ればいいんじゃないかと思います。

山田委員 私は生駒と言うと、ハイ・オービスかなと。ハイ・オービスは自慢したいと思っています。郷土愛というか、現在の静かな新興住宅街、おしゃれな街なみがほかに誇れるところかなと思いますね。

吉川委員 生駒には古い石仏が多くあるので有名なんです。例えばあの役場庁舎の前は大阪からの古堤街道が通っています。道沿いには点々と石仏が残っている。そういう歴史が郷土愛につながると思います。

山田委員 そういったことを映像にして物語として製作したらもっと市民にわかりやすくなると思います。

神委員 行基のお墓もありますよね。行基を出すと、すごい立地も繋がり話がどんどん広がり、地図で行基流ってあるのですか、伊能忠敬が作る前はほとんど行基流ぐらいであったと聞いて、すごい人だと思っていた。行基を前に出し語り部みたいな形で、生駒の代表として、すごいぞとすれば。子ども達も知っています。行基は学校でも習いますし、全国でおそらく知らない人はいないと思います。キーワードになるかと思いました。この中に全然出てこないのでは何かと不思議でした。

浦西会長 生駒は、近代特異な発達をしたところなんです。古い文化と最先端な要素が両方ある。そういうところに生駒を感じます。生駒市郷土資料館という名称でいいのかという問題もできる。

建物の活用については、建物を具体的に見ないと話ができないと思います。

山本副会長 瓦の特徴からいえば、鎌倉時代の瓦を未だ使っている堂もある。瓦窯も残っている。発掘もされている。平城遷都1300年記念事業で平城跡で瓦作り体験の協力をしたけれど効率が悪かった。人の来ない所は呼びかけをしないといけない。企画が大切。保存することが大事だということを市民に理解をもってもらいたい。瓦作りも披露し、出前も協力します。平群の工場にも近くの小学3年生が毎年体験に来る。そういう取り組みも盛りこんでいけばいいと思います。

浦西会長 登録有形文化財建造物を保存することを要にして、建物や資料を後世に伝えていくことをバックに背負っておこなう。また学校の子どもたちにどんどん来ていただくように企画も考えなければならない。いろいろと貴重な意見をいただけたと思います。次回会場を旧生駒町役場で設定していただいているので、そこで実際に現場を見ながら議論を深めていきたいと思います。今日の会議はこのあたりにおいて、次回会議については、事務局で説明をお願いします。

事務局 次回の第3回会議は、10月25日（月）午後3時から5時まで中央公民館別館で行います。会議の予定は、5～6回で行うと初めに申しましたが、本日は「資料館の機能」というところで、ご審議いただきましたが、未だ調査研究、情報発信、市民参加などの項まで至っていないと思いますが、今回は建物を観ていただきながら、その活用についてもまたご議論いただけたと思います。次回は一応検討項目の中の「資料館の運営」について検討していただくことにして、行きつ戻りつしながら、ご審議いただきますと、後でまとめやすいかなと思いますので、みなさまご協力をお願いいたします。

委 員 了 承

浦西会長 他にありませんか。  
では、これで郷土資料館新設準備検討懇話会第2回会議を閉会します。  
ありがとうございました。

以 上